

鶴岡市総合戦略策定推進会議（会議概要）

- 日 時 平成30年11月7日(水) 午後1時30分から
- 会 場 鶴岡市役所 6階 大会議室
- 次 第 1 開会
- 2 あいさつ
- 3 協議
 - (1) 鶴岡市まち・ひと・しごと創生総合戦略の改訂について
 - (2) 若者・子育て世代応援施策について
- 4 その他
- 5 閉会

以下、委員発言の要旨

(1) 鶴岡市まち・ひと・しごと創生総合戦略の改訂について

1 取組みの見直し

○農業人材育成事業

- ・「山大農学部との連携」とはどのようなことを想定しているか。
→大学が行っている「食と農のビジネス塾」という新規就農者向けの座学の研修制度があるが、それを域外の人にも提供できるような仕組みづくりを想定しており、大学の教える機能を活用していくというものである。
- ・「JAや民間企業と連携し求人側と求職側をマッチングさせるコーディネーターの配置」とあるが、マッチングは職業紹介事業になる。鶴岡市や鶴岡市農協、庄内たがわ農協は無料職業紹介事業の許可を得ているが、主になるのはどこか。
→農繁期に手伝うアルバイト的なもののマッチングであり、無料職業紹介所はJA鶴岡やJA庄内たがわの機能を活用していく想定である。また、マッチングを円滑に進めるコーディネーターが不足していれば充実を図っていくという趣旨である。

○民間企業が実施する屋内遊戯施設整備に対する支援

- ・SORAIへの支援の追加ということだが、具体的にはどのような支援を想定しているのか。
→昨年度と今年度1億円ずつ合計2億円の施設整備の支援をしている。今後は、利用促進に関わるPRなどについて、会社と協議したうえで必要な支援をしてきたいと考えている。

○豊かな自然環境の中での保育事業

- ・保育園同士の交流はもちろんいいが、「自然豊かな」という点で言うと、例えば櫛引地域のいきいきべんとう村のような施設を活用し、子どもたちに自然体験を提供できると思うがどうか。
→これまでは保育園を単位としたつながりや各園における自然を活用した保育の推進と

いうことに留まっていたが、おっしゃるとおり、園にこだわらない又は園を超えた活動や他部署との連携について検討してまいりたい。

- ・ただ自然に入れればいいということではなく、きちんと整備されていることが必要で、部署間の横の連携をとらないと成し得るものではない。鶴岡市の財産である豊かな自然を活用し子どもたちに自然を学んでもらいたい。
- ・森の保育を進めていくのであれば、専門職員を地区ごとに配置し、それぞれの地域にあったプログラムを作り各保育園や幼稚園に提供するというのが理想的であり、それが若者の定着につながる一つの手段になるのではないか。このように展開し発展させていくことが若者の仕事を作ることに繋がると思うのでぜひ考えていただきたい。

2 重要業績評価指標（KPI）の見直し

- ・旧栄小学校を利用したインキュベーション施設の拡張に伴う KPI が加わっているが、具体的な事業目途はどうなっているのか。
→今年度整備予定で、年度内に改修を終え来春から入居していただく計画である。建設工事と並行して入居募集をしてきたいと考えている。
- ・創業者が増えることはいいことだが、大事なことは継続することである。新規創業者がこの先も継続できるような支援についてもなお一層お願いしたい。

3 その他

- ・保護者向け見学ツアーは非常にいい取り組みだと思う。地元企業を知ってもらうため、中学生ぐらいから早めに取り組んでいただきたい。中学生や高校生は親御さんの影響が非常に大きいので、親御さんから地元素晴らしい中小企業があることを感じ取っていただきたい。

(2) 若者・子育て世代応援施策について

- ・市の戦略では婚活は別扱いになっているが、「働く」「育む」の中に結婚も組み入れてやった方が成果が出ると思う。
- ・不登校児に対する学力支援をしているところがマリカにあると聞いているが、利用方法が周知されていない。こういったことを明確にすることは支援が手厚いということで鶴岡市の売りになると思う。
→本市では以前から特別支援教育に力を入れており、先生方の研修など他市町村より進んでいることに加え、マリカでは教育相談も行っている。私どもは学校を通してPRしているつもりだったが、ご指摘があったということはもっと力を入れていかなければならないと受け止めている。ご提案のあった子育てのPRになるということについてもそのような視点が抜けていたと思うので勉強して参りたい。
- ・学校統合により遠くからスクールバス通学をしている場合、冬期間だけでも始業時間を遅らせることができないか。また、中学校のスクールバスについては、1便と2便の間に、民間バスに乗って帰れるような制度を考えていただけないか。

→教育の根幹をなす学校のカリキュラムをバス時刻に合わせるということは難しい問題である。学校現場ではバス運行と学校のカリキュラムとの整合に大変苦勞しているということで問題意識は持っている。下校バスは2回に分けて運行するなど工夫しているが、民間のバスを使うとなると調整が必要になり難しいところだが、引き続き、地元や親御さんと相談しながらより良いものを個々にやっていきたい。

- ・ 前回も話したが、学童で支援員が不足している問題が常時起こっている。市でやっている学童と学区協議会でやっている学童があり待遇面など様々な課題があるので、市から一元的に管理していただき、保護者が安心して子どもを学童に通わせられるよう、市には保護者の味方であってほしい。

→学童保育、放課後児童クラブの環境については前回もご意見を頂戴し、学童連絡協議会や学区との話し合いの場を持った。ほとんどの小学校区で放課後児童クラブ・学童保育の需要は増えている。市の学童保育については主に民営となっているが、市街地には児童館との複合施設等があり市の指定管理という形で民間から運営していただいている。一元化については、運営者や保護者から現状などご意見を伺いながら環境保全に努めてまいりたい。

- ・ 例えば、庄内を守るために、鶴岡を守るために、うちを守るために帰ってこいということ子どもたちにすり込む場合、子どもたちに城下町という認識を持たせないといけないのではないか。合併後に作り直した市民憲章などもあるが、庄内で生まれた、鶴岡で生まれたという何か共通した意識というものを作ってほしい。

- ・ 地元産米の学校給食への支援について実態を教えてください。

→学校給食の積算上は二等米で積算しているが、実際には子どもたちにおいしいお米を食べてもらいたいことから一等米で提供し、一等米と二等米の価格差分は市で補っている。

- ・ 親が子どもに「鶴岡はいいところだ」「庄内はすごくいいところだ」「おいしいだろ」と小さいころから言い聞かせながら育ててきているかということ、必ずしもそうでなかったのではないか。これは食文化についても同様で、庄内に人を呼ぶことも大事だが、まず鶴岡の人が自分たちの食文化の豊かさを知り、昔食べていたものを再び食べられるようにする努力をしないと他から人は呼べないのではないか。観光客も地元の人がよく行く店をちゃんと探して歩いているので、地元の人がいかにそこに行くかということが大事である。庄内の中で育て加工し消費し自給率をあげるということ、ぜひ行政で何らかの形で入れていただきたい。